

平成30年度 第1回生駒市環境審議会 会議録

1 開催日時 平成30年5月18日(金) 9時30分～11時35分

2 開催場所 生駒市役所 4階 401・402会議室

3 審議事項

(1) 第3次生駒市環境基本計画の策定について

(2) その他

(以下、敬称略)

4 会議出席者

会長 中西達也

副会長 水谷知生

委員 下村晴意 山田耕三 河瀬玲奈 藤堂宏子 岡田博之

池田憲央 竹本和靖 矢田千鶴子 遊津隆義 横井明弘 山本裕子

事務局 石畑欽一 地域活力創生部長

奥田吉伸 市民部長

川島健司 地域活力創生部次長兼環境モデル都市推進課長

竹本好文 環境保全課長

大窪奈都子 環境モデル都市推進課課長補佐

奥田和久 環境保全課課長補佐

木戸勇 環境保全課課長補佐

大熊啓文 環境モデル都市推進課地球温暖化対策係長

竹田有希 環境モデル都市推進課地球温暖化対策係員

オブザーバー 株式会社地域計画建築研究所 長澤、森野

バー

5 傍聴者 なし

9時30分 開会

6 審議内容

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

先週土曜日に第5回目の市民ワークショップがあった。自身も、ずっと参加してきた訳ではないが、後半の1時間半くらいいた。過去4回でしっかり議論されてきたと思う。ワークショップで出てきた意見を、計画の中にどのように盛り込んでいくのか、審議会の重い役目ではないかと思っている。本日、平成30年度第1回の審議会となるが、忌憚のない意見をお願いしたい。

(3) 委員紹介

事務局より紹介。

(4) 審議事項

以下、発言要旨。

- 中西達也会長** 会議の成立について事務局に報告を求める発言。
- 事務局** 会議の成立について報告。全委員14名のうち13名の出席により会議は成立。
- 中西達也会長** 事務局に傍聴者の報告を求める発言。
- 事務局** 傍聴者はなし。
- 中西達也会長** 案件1「第3次生駒市環境基本計画の策定について」審議を宣告。
- 事務局** 事務局に説明を求める発言。
- 事務局** 資料1「第3次生駒市環境基本計画策定に係る審議会等における検討の手順」より説明。平成30年度としては、本日を含め5回開催予定。3月には市議会に報告し、計画策定となる。8月以降は頻繁な開催になるがご理解をお願いしたい、との発言。
- 中西達也会長** 策定までの手順につき説明があった。スケジュールに問題はないか委員に確認を促す発言。
- 委員** 意見はなく、了承。
- 事務局** 資料2「第3次生駒市環境基本計画策定市民ワークショップ実施報告」及び資料4「第3次生駒市環境基本計画策定 第5回市民ワークショップ実施概要」に沿ってこれまで実施してきた市民ワークショップ内容の報告。
- 事務局** ワークショップでの班構成については、参加者が色々な人と知り合い、連携、協力できるように、1回目から3回目までは毎回メンバーを変えた。4回目と5回目は連続的に4つのテーマ分類に分かれて提案を取りまとめてもらった、と報告。
- 事務局** 資料3「第3次生駒市環境基本計画（骨子案）」に基づき説明。第1章には、関連計画との位置付けの整理や本計画が環境分野における最上位計画である旨も記載する予定である。第2章においては、前回の審議会でも市民アンケート調査の結果から計画策定に結びつくものをまとめて整理した方がよいという意見をいただいた。それを踏まえてここでは次期計画につながると思われる要素をピックアップして提示している。第3章では(2)で4つの目標と施策体系(案)を示しているが、第4章「具体的な施策」、第5章「リーディングプラン」が次回での提示となるため、今後検討の中で方向性が変わる可能性もある。現時点での意見を伺いたい、との発言。
- 中西達也会長** まずは、ワークショップの総括的な報告があった。審議会委員の中で、ワークショップに参加されている方から補足等はないか、との発言。
- 矢田千鶴子委員** 第2次計画との違いで感じたのは、第2次計画は、「地球環境」からスタートしていた点である。第3次計画は、「持続可能な生駒」が核になっており、目的が具体的に見えてきた。高齢化が進んできた中で、身近な生活環境をどうするのかという意見が参加者から色濃く出てきたように思

う、との発言。

中西達也会長

前回と今回では視点が違う。今回も地球環境について触れられていない訳ではないが、議論の前提が変わってきたようだ、との発言。

横井明弘委員

自分は地球環境班に入っていた。聞いたところによると2019年に電力の固定価格買い取り期間満了の問題が出てくる。それを見据えて、市民と協働して電力買い取りやシェアをしていく取組がある。経済性のことも含めて市民に理解してもらうことが必要だと聞いた、との発言。

遊津隆義委員

ワークショップについては、短時間でよくまとめられていると思う。気付いた点としていくつか挙げられる。①市民・行政・事業者の役割分担がワークショップの報告では見えにくい。②目玉がほしい。生駒市は先進的な自治体なので、エネルギーの地産地消+何か、がほしい。③適応の話であるが、安全防災にどう備えるか、防災面での視点があってもいいのではないか。④意識は高いが、行動面が20年前とどう変わったかという点あまり変わっていないのではないか。例えば、カーボンプライシングのような、インセンティブとなる仕組みの議論があった方がよい。排出権までは難しいかもしれないが、環境税などの導入を検討してもらいたい、との発言。

中西達也会長

市民・行政等の役割分担が具体化されている部分が見えていない、という点について事務局はどう考えているか、との質問。

事務局

ワークショップの方法として、「役割分担を考えて下さい」という投げかけはしたが難しかったのかもしれない。計画としては明らかにしていかなければならないと考えている。第6章の推進体制の部分で、市民・行政など、分けるところは分けて書いていきたいと思っている、との回答。

中西達也会長

目玉となるものは？との質問もあったがその件についてはどうか、との質問。

事務局

今回の骨子案では施策を示すことができていないが、エネルギーを中心に考えている。この場ですぐに提示することは難しいが、次回素案の時に提示し、検討いただきたいと考えている、との発言。

遊津隆義委員

目玉がなければなくてもかまわないのだが、との発言。

中西達也会長

安全防災の視点はどうか、との質問。

事務局

目標4つのうち、生活環境なのか地球環境なのか難しいところではあるが、気候変動に対しどう適応していくのかという視点は必要だと考えている。夏場の健康被害の問題や水害等の問題も含めて、それにどう対応していくかの視点は入れ込んでいく、との回答。

中西達也会長

これも素案をみて議論することになる。最後に、意識の高まりはあるが行動につながっていないのではないかと、ということだが、これについてインセンティブを設ける等はどうか、という意見があった。この点についてはどう考えているか、との質問。

事務局

この場で経済的メリットについて言及するのは難しい。相当議論が必要であり検討課題にもなる。環境施策を進める上で、経済と相反する立場は取りたくない。いこま市民パワー(株)の取組も収益を地域に還元することを主眼に進めている。このように市民生活に還元できることをインセンティ

ブとして捉える方向性という視点でまとめられたらと考えている、との回答。

中西達也会長

直接インセンティブは難しいのかもわからないが、大きな視点でのメリットもあるのではないかと。それを素案に入れ込んでもらえればと思う、との発言。

藤堂宏子委員

条例等では「市民等」に「事業者」を含む場合が多いが、骨子（案）では、市民・事業者・行政と明記されているので分けて考えているのだろうと解釈している。それを踏まえワークショップの報告を見ると、ワークショップのメンバーとして事業者が2名入っているにも関わらず、事業者の視点が出てきていないのが気になる。フードロスのところ「ITを使って事業者と消費者をつなげよう」、という点にしか“事業者”が出てこない。今後第6章でそれぞれの役割を明記するとのことだが、事業者サイドの積極的な関わりを反映できないのか、というのが感想である、との発言。

中西達也会長

ワークショップで事業者2名となっているが、どのような事業者なのか。また事業者の視点・立場からの意見はあったのか、との質問。

矢田千鶴子委員

班で事業者の方と一緒にしたが、事業者としての発言ではなく個人の立場で発言をされていた。言いたい部分もあったかと思うが「うちがやりますよ」になってしまうから、配慮しながら参加されていた印象がある、との発言。

中西達也会長

なかなか思い切って「やります」という発言は立場的にも出来なかったのかもわからない。先ほどもあったが、第6章で入れ込んでもらいたい、との発言。

事務局から出てきているキーワードについて過不足はないか、との問いかけがあった。これについて、キーワードと計画がどうつながるのか、イメージが湧きにくいのが、キーワードは何のために置いているのか、との質問。

事務局

総合ビジョン（キャッチフレーズ）を端的な表現で入れ込むイメージである。いきなり文章で示すと固定化されるので、キーワードを出してもらえたらありがたい、との回答。

中西達也会長

「キャッチフレーズを考えたいが、要素としてどんなものを入れたほうがいいですか」ということである。30個40個出てきても大丈夫なのか、との質問。

事務局

出てきたもの全てを網羅できないかもしれないが、精査し次回に示す、との回答。

中西達也会長

キーワードとは結論としてキャッチフレーズとの関係だということを理解いただき、意見質問があれば挙手してほしい、との発言。

水谷知生副会長

直接キーワードの話ではないが、目標1～4について短い期間のうちにワークショップで意見を聞きだし、うまくまとめられていると思う。しかし、各分野のつながりはどうかというとそれぞれが独立している。ワークショップでもそれぞれのジャンルで検討されていたと見て取れる。それをトータルとしてどうもっていくかが必要なのかなと思う。それがキーワード、総合ビジョンにも繋がっていくのではないかと。一つ言葉として気にな

っているのが「再エネの地産地消」である。取組自体はユニークであり、PR していくべきものかと思うが、他のジャンルにも「地産地消」の視点を広げて考えていくと良いと思う。「地産地消」という言葉を再エネだけに使うのはもったいないと感じる。それぞれの目標を総合して何をを目指すのか、を考えることが、市が目指す将来像となるのではないか。「持続可能性」などが上がってくるのかと思うが、それを具体化していく中のキーワードとして例えば「地産地消」をもう少しクローズアップしていくとか、全体をまとめる考え方を一つ出していくといいのかなと思う、との発言。

中西達也会長

ワークショップの報告でもあったが、4つに分けたがために、それぞれの分野で縦の議論をすることになり、相互の結びつきが難しい。行政が横串を挿す何かが必要だった。目標4が一つそれにあたる。共通項がみつければそれがキーワードに基づくキャッチフレーズになるだろう。工夫が必要だと思し検討してもらいたい、との発言。

横井明弘委員

水質の環境基準について、竜田川で未達の場所がある。しかし目標2に記載されている表現では、現状に満足しており維持していく、と聞こえる。未達は認識しており向上させていくということを明記してほしい、との発言。

中西達也会長

「維持」という表現はそのまま良いと捉えられる。全てが環境基準を達成していればそれでよいのだろうが、残念ながら達成していないところがあるのだからその部分の表現は考えて頂きたいし、未達の部分は前向きに検討してほしいという意見だと思う。これについても次回の素案の部分で書いてもらえればと思う、との発言。

矢田千鶴子委員

生駒は4つの河川の源流を持っているが、川のことには触れられていない。自然環境か生活環境かわからないが、ワークショップでも出ていたが「川」という言葉を使って表現してもらいたい。

第2次計画ではビジョンを達成するためのプロジェクトを作り、ビジョンを達成する為に「だれがいつ何をするか」の議論を深めた。今回のワークショップでは、「何をどう作っていくのか、だれがいつ何をどうするか」の議論はあまりできていなかった。そこが若干気になっている。第5章でリーディングプランを提示する。ワークショップの提案の中から、全てが選ばれるとは思っていない。次回説明されるのかもわからないが、どのような考え方で選択されるのか、今の時点で聞きたい。同様に、生活環境のところで、市民の移動手段を確保するということがテーマとして大きく上がっていたのに素案の中では触れられていない、との発言。

中西達也会長

川の問題についてはどこかで触れてほしいという意見なので、検討してほしい。第5章のリーディングプランについて、どのようなイメージで選ばろうと考えているのかについて回答できるのであれば回答してほしい、との発言。

事務局

まずは、積み上げてきた5回のワークショップでまとめられた提案と、その過程で出てきたキーワードを重視するのは大前提である。先に述べたように全てを取り入れるのは難しいかもしれない。また、行政が重視するところ、問題視しているところや各部門の施策などを加味しながら提示し

ていきたい。その中でもワークショップで検討してきたエッセンスは「ここにこのように反映した」などきちんと説明したいと考えている、との回答。

中西達也会長

ワークショップで移動手段の話があったが、触れられていないのはなぜか、との質問。

事務局

交通の取組は環境・福祉・健康など幅広い分野にまたがり、具体的にどんな交通施策を取り上げられるのかなど加味しながら色々な観点から検討したい、との回答。

遊津隆義委員

パリ協定以降、温暖化対策が加速している。2050年以降はほぼカーボン0である。「低炭素」ではなく、「脱炭素」くらいの意識で取り組んでもらいたい、との発言。

河瀬玲奈委員

ひとつは、目標1～4が縦割りになっており繋がりが良く見えない点が気になる。

もうひとつは、指標に関してで、目標2で「資源循環型」と掲げているのであれば、資源循環率など循環についての指標があったほうがよい。また、代表指標については市全体の大きな指標でよいが、市民の生活に落としこんだ時にどう理解すればよいのかがあったほうがよい。例えば、毎週45リットルのゴミ袋〇個など、第4章や5章なりに入れると、より市民にわかりやすく取り組みやすい計画になると思う。

さらに、環境・経済・社会の統合的視点で横串を通してしているが、可能ならば全体としてこの3つの指標が関係し合って最終的にどういう社会になるのかを一つの将来像で表せばより分かりやすいと思う、との発言。

中西達也会長

最後の話だが、提案をふまえて、統合についても検討してほしい。

もうひとつ、指標を市民レベルの目標として表したら「私に何ができるのだろうか」となる。これも検討してほしい、との発言。

竹本和靖委員

第3次計画の根幹といえる第3章の4つの目標について、第2次計画との整合性はどうか。第2次計画では、「自然環境」「生活環境」「まちみち環境」「エネルギー環境」となっていた。それが、それぞれ第3次計画では、「自然環境」「生活環境」「コミュニティ」「地球環境」に置き換わり、ある程度第2次と第3次の整合性が保たれていると考えてよいのか、との質問。

事務局

まち・みち環境はどちらかという、第3次の生活環境にあたる部分が多いと思う。コミュニティは全ての分野に共通した取組というイメージである、との回答。

矢田千鶴子委員

ECO-net 生駒のまち・みち環境担当として回答させていただく。第2次計画のもと取り組んでいるプロジェクトで見ると、みどりの話は「自然」、移動の話は「地球環境」、歩きたくなる生駒が好きになる人を作ろうという話は「コミュニティ」にそれぞれ分散された、との発言。

中西達也委員

第2次計画は市民の目線が重視されており、第3次では行政施策とのバランスを図りたいため、若干手を加えたいということだと思う。第2次を切り捨てているわけではないと思うので、第2次と第3次のつながりほどここに入れておいたほうが良いと思う。配慮してもらいたい、との発言。

- 下村晴意委員** 第4章～第6章が出てこないとわからないので確認だが、目標1「自然環境」取組の方向性③には「まちなかの緑を増やし、自然を身近に感じるまちづくりを進めます」とある。緑を増やすと具体的に書いているが、住宅地の公園などは自治会が、宅地内の落ち葉などは自治会や個人で清掃しているが、高齢化が進み大変になっている。ある住宅では伐採したところもある。その状況を踏まえて「緑を増やす」で、大丈夫なのか、との発言。
- 事務局** 公園などは自治会で管理してもらい、その苦勞も知っている。数量を増やすという意味だけでなく、生垣や壁面緑化、花とみどりのまちづくりなど活動する人を増やしたいという、前向きな意味をこめて表現している。もう一度検討したい、との回答。
- 中西達也会長** 第4章～第6章が出てこないとわからない部分もあり、また出てくると第3章を見直すことにもなると思う。次回素案が提示された段階で議論し構成を変えること自体も事務局は対応すると言っているので、今の段階で出せる意見を出してもらいたい、との発言。
- 矢田千鶴子委員** ふたつある。①なぜこの目標を設定したのか、というリード文があれば先ほどの件もカバーできる。②近畿大学の久教授から“緑視率”の考え方を教えてもらった。緑豊かに感じるまちづくりは大切だと思う。増やすだけだと緑化率を上げるという誤解を招くのでないか、との発言。
- 中西達也会長** 目標のリード文については、第2次と第3次のつながりや、なぜ目標に選んだかということもあり大切だと思う。緑視率と緑化率の考え方の違いもあるようだ。単に緑を増やすのではなく、緑に触れることを増やす意図だと思うので、表現を工夫してほしい、との発言。
- 河瀬玲奈委員** リーディングプランを選ぶ時に、この施策は目標1にも目標2にもいいことがある、とわかるように書いてもらったら、今はばらばらにみえていることもつながりが出てくると思う、との発言。
- 中西達也会長** 問題意識として感じるのは、縦に割りすぎていることである。これにどう横串を通していくかが腕のみせどころかと思う。色々意見が出ているが重要な課題でもあるため検討してほしい、との発言。
- 案件1についての審議を終了。
- 案件2「その他」について審議を宣告。
- 事務局** 資料5「生駒駅周辺喫煙禁止区域指定に伴う啓発活動」に沿って説明。現在まで、奈良交通のバス停、生駒市内の駅、公共交通施設でのポスター掲示を実施している。広報、ホームページへの掲載などで周知を図ってきた。以降については必要に応じて巡回指導および啓発活動を行う予定としている、との報告。
- 中西達也会長** 案件2の審議を終了する発言。
- 事務局** 次回、第2回審議会は8月30日（木）午前9時30分～開催する。
- 中西達也会長** 審議会の閉会を宣言。
- 11時35分 閉会